

令和6年度 掛合小学校 研究の構想（2／3年次）

1 学校教育目標

「ふるさとを愛し 豊かな人間性とたくましい実践力をもつ かけやっ子の育成」

～めざす子ども像～

か：かしこい子（生涯に渡って学び続けようとする子）

け：げんきな子（自ら健康に気を配り、心も体もたくましい子）

や：やさしい子（明るくやる気にあふれ、思いやりのある子）

2 研究主題

分かる楽しみがある、学び合う授業づくり

～「つきたい力」を明確にした授業実践を通して～

3 主題設定の理由

（1）学校教育目標から

本校の学校教育目標の中にある「豊かな人間性とたくましい実践力をもつかけやっ子の育成」とは、子ども同士が主体的にかかわり合いながら、人間性を高め、新しい時代をたくましく生き抜く力をもつ子どもを育成することである。そのためには、基礎的基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して自ら考え課題に向かい、思考力・判断力・表現力を育み、ともに学び合おうとする人間性を涵養することが大切である。それはまた、めざす子ども像の「かしこい子」にこめられた姿、生涯に渡って学び続けようとする子そのものである。つまり、本研究主題を追究することにより、学校教育目標を具現化できるものとする。

（2）本校児童の実態から

昨年度の研究では、算数科における説明力の向上を図る取り組みを行ってきた。児童アンケートでは、友達の説明がよく分かると感じている児童が大幅に増加したことから、自分の考えを表現する力や相手の考えを聞くこと、友達と関わりながら学習することへの意識が高まってきたと言える。しかしながら、高学年になるにつれて、学力差が顕著に見られるとともに、算数の学習において「分かる楽しみ」を感じている児童の割合が低い現状がある。「分かる」ことを実感させるためには、実態把握をもとにしたより一層の授業改善を図っていくことが必要だと考えられる。また、学力調査の結果からは、算数科においての活用力が低く、自分の考えを言葉・式・図を使って説明する力が弱いことが分かっている。

（1）（2）のことから、今年度は、「分かる楽しみ」を感じることでできる授業づくりをめざし、そのための、効果的な手立てを明らかにするため、標記の主題を設定した。

4 めざす子ども像

『積極的に学び合いに関わり、算数科において分かる楽しみを感じる子ども』

5 研究目標

「つきたい力」をつけさせるための手立てを工夫し、「分かる楽しみ」を感じさせられるような授業実践をめざす。

6 研究基本仮説

算数科の授業において、「つきたい力」をつけるための実態把握に基づいた手立てを工夫すれば、積極的に学び合いに関わり、「分かる楽しみ」を感じる子どもが育つだろう。

7 研究内容

(1) 「つきたい力」をつけさせるための授業づくり 【①～③共通の柱として、④は独自の視点】

①学習の足跡となる「めあて」と「まとめ」

- ・「めあて」…児童にとって必然性があり、学ぶ意欲が高まるもの
- ・「まとめ」…めあてとの整合性、学習成果の確認（～すればできる。～すればよい。）

②メタ認知力を伸ばす「振り返り」（自分の認知を客観的に捉える）

- ・自己理解（わかる楽しさ、できる喜び）、他者理解、次時の目標設定につながる場

【振り返りの視点】

- ・自らの気づき（～することの大切さを学びました。）内容知・方法知
- ・自らの伸びや課題（昨日よりも…、～できなかったので次は…。）
- ・他の経験や学習とのつながり（～を理科の時間にも使って…してみたい）
- ・友達からの学び（～君が～してくれたおかげで…）

※児童の記述から教師側も授業を振り返り、授業改善につなげていく

③「学び合いを支える力」の育成

- ・パワーアップタイム、スキルアップタイム
- ・書取会、計算会の実施に向けた家庭学習（自学）の充実
- ・週1回のスリンプルプログラムの実施
- ・要約学習

④「つきたい力」に向かう児童の実態に応じた手立ての工夫

【手立ての例】

- ・単元計画…カリキュラム・マネジメントを意識した単元構成
→他教科で身につけた力を生かして・・・
- ・導入場面…必要感のある課題設定
→身近な生活場面の活用、単元を貫く課題
- ・全体思考の場面…話型の提示、伝え合う場の工夫
→単元をとおして身に付けさせたい話す・聞くスキルを提示して
→目的が明確となっている学習形態（ペア・グループ）
→学び合いを促したり、深めたりする教師の「問い」
- ・個人思考の場面…ユニバーサルデザインを意識した授業づくり
→課題解決の土台となる基礎知識の習得と共有
- ・ICT機器の有効な活用

(2) 検証の方法

- ・ 全校児童アンケート（6月下旬と12月末の変容から検証）
- ・ 学力調査12月（正答率・全国や県との比較から検証、強み弱みの検証）
- ・ 研究授業（児童の実際の姿から検証） ☆手立てによって、つけたい力がついたのか
- ・ スキルアップタイム（記録について6月～12月末の変容から検証）

8 研究イメージ

